

大学院体育学研究科 カリキュラム・マップ(2020年度入学生)

科 目 名		授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要			
							①	②	③	④
ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に修士(体育学)の学位を授与します。 ①体育・スポーツに関わる高度な専門的知識を学修し、実践に応用できる能力・技術を身につける(知識・能力・技術) ②ライフステージに応じて、スポーツなどの身体活動に求められる課題を解決できる能力を身につける(能力) ③科学的根拠にもとづいて、競技能力を高めるための練習法の改善、効果的な指導法を考案し、教授できる力を身につける(技術・能力・創造) ④社会状況や文化的伝統を正しく理解した上で、ライフステージに応じた柔軟なマネジメント能力を身につける(知識・能力)								
体育・スポーツ学特論		講義	1	2	本研究科の教育理念や設置目的の理解のための基礎的科目としての位置付けであり、スポーツ教育およびスポーツ科学の両分野を広く学修し、体育学に関する研究能力や高度な指導能力を養っていくうえで必要な基礎的知識・実践力を得る。	体育学に関する幅広いテーマの概説を行い、研究や教育、様々な現場で能力を発揮できる高度専門職業人としての資質を身につける。	◎	○		
スポーツ教育研究法		演習	1	2	スポーツ教育分野の各専門領域担当者によるオムニバス形式の授業である。それぞれの研究の現状と課題について輪読や通読を通じて理解を深める。また、具体事例から、問題解決につなげるための実践能力の構築につなげる。	スポーツ教育・体育分野、武道やスポーツ文化に関わる研究の輪読や通読を通じて、課題の探求と解決のための能力を養うことを目的とする。それぞれの分野・領域に関わる文献や資料の輪読などにより講評能力および問題を明確にする思考能力を高めることができる。	◎	○		
スポーツ科学研究法		演習	1	2	スポーツ科学分野の各専門領域担当者によるオムニバス形式の授業である。それぞれの研究の現状と課題について輪読や通読を通じて理解を深める。また、グループワークによる具体的な事例の理解から、問題解決につなげる実践能力の構築につなげる。	1) スポーツ科学の各専門分野の課題に関して、先行研究を講読するなどの方法を用い、この分野における学修の進め方及び研究の進め方について、最新の研究を学ぶ。 2) 生涯スポーツや競技スポーツの指導者、健康づくりの人材として、幅広い知識や問題解決能力や研究法を身につける。 3) 各専門領域の先行研究を知ること、研究計画のデザイン、統計解析法、図表の作成、論文構成を身につける。	◎	○		
体育学特別研究Ⅰ		演習	1	2	スポーツ教育分野あるいはスポーツ科学分野の各担当者から、修士論文作成のためのリサーチクエッションの立案について議論を深め、研究の方向性決定につなげる。	修士論文作成のための研究法の基礎的理解とテーマの設定、課題抽出、研究計画の作成に至る学修を行い、体育学特別研究Ⅱの論文作成の具体的手法の理解につなげる。				◎
体育学特別研究Ⅱ		演習	2	2	主にGoogle ScholarやCiNiiなどの検索エンジンを用いた文献検索、測定データの収集法、データの解析、結果の解釈など修士論文作成に必要な能力を修得する。	体育学特別研究Ⅰに引き続いて、実際の研究遂行に必要な知識や実践手法を身につけることができる。特に、論文作成に欠かせない文献整理とレビュー、研究デザイン、データ収集と解析、結果の総括と考察、プレゼンテーション能力を養う。				◎
体育学特別研究Ⅲ		演習	2	2	修士論文の課題設定、文献検索による研究方法や背景の探索、緒言や方法、考察などの章立てを指導教員と相談の上で、自身の修士論文の執筆能力を修得する。	修士論文作成のために、体育学特別研究Ⅰ及びⅡの学修を通じて、参考文献の理解、データ解析法の適切な利用から、研究のオリジナリティを発表できるプレゼンテーション能力にさらに磨く。				◎
体育科指導実践実習		実習	1・2	1	学習指導要領に示された体育科の内容である「器械運動」、「陸上競技」、「水泳」、「球技」、「ダンス」、「武道」の実践実習を通して、それぞれの教材について学び、諸課題を多角的に把握できる視点と研究力を身につけ、主体的に取り組む態度と効率的でよくわかる授業をおこなうための実践的指導力を修得する。	体育科教育の実践指導に関わる高度な専門的知識を主体的に学び、授業構築や授業改善に必要な具体的知識や、示範能力および省察能力とともに、専門的指導力を身につける。	◎		○	
保健体育科指導特別演習		演習	1・2	2	保健体育科指導において学校現場で求められる教科指導、生徒指導やカウンセリングの方法について、教科指導に関わる体育科教育学、体育教育史、臨床心理学、臨床教育学、学校心理学の観点から学修する。学修した内容についての課題ペーパー提出、グループワークによる意見の交流、発表、具体的な指導計画の立案などを求める。	1) 保健体育科教員に求められる資質・能力や指導法について修得し、指導法について具体的な授業プログラムを作成、発表することができる。 2) 保健体育科の今後の方向性について、体育教育史、臨床心理学を通して学修した内容を基に自己の考えを省察・論述することができる。 3) 心理療法の技法体験を基に、学校現場で求められる生徒指導や生活指導のあり方についてカウンセリング等の視点を定め論述し、相互評価することができる。	◎		○	
生涯スポーツ特論		講義	1・2	2	誰もが各々のライフステージ、適性、関心等に応じて、いつでもどこでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現が求められている。また、近年問題となっている、スポーツ現場における暴力やハラスメントに関する課題を解決することは喫緊の課題である。本講義では、スポーツが人生を豊かにする文化であるということを理解するとともに、スポーツが内在する本来的な価値を高めるために、スポーツのあり方を総合的に見直す視点を持つことが重要であるということを、様々な事例をもとに学修する。	生涯学習の観点からスポーツ参加のあり方を理解し、ライフサイクルの全体を通した豊かなスポーツ享受と、それを可能にするための社会全体における様々な場におけるスポーツ環境の整備の重要性を認識するとともに、現状のスポーツ環境の問題点を指摘したり、具体的な改善施策を提言することができる。	◎			○
インターンシップ		実習	1・2	4	インターンシップでは、トップスポーツの試合運営、生涯スポーツイベントの企画・運営に関する就労体験を通じて、より高度で実践的なスポーツ・マネジメントを学ぶ。また、現場での経験を通じて、スポーツ以外の多様な多様な事象との結びつきを理解し、スポーツ現場での実践力を身につける。	1) 奈良県内のトップスポーツチームの試合運営、ならびに関連する事業の企画を通じて、スポーツ・マネジメント関連の知見を実践的に身につける。 2) 奈良県内での生涯スポーツイベントの企画・運営を通じて、多様なスポーツ実践者の実態を理解し、安全・安心を含め、多くの市民に受け入れられるイベントのあり方を学ぶ。	◎			○

科目名	次のような知識や能力を備えた学生に修士(体育学)の学位を授与します。				授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号			
	授業形態	配当年次	単位	①達成のために特に重要			②達成のために重要	③	④	
										①
ディプロマ・ポリシー	①体育・スポーツに関わる高度な専門的知識を学修し、実践に応用できる能力・技術を身につける(知識・能力・技術) ②ライフステージに応じて、スポーツなどの身体活動に求められる課題を解決できる能力を身につける(能力) ③科学的根拠にもとづいて、競技能力を高めるための練習法の改善、効果的な指導法を考案し、教授できる力を身につける(技術・能力・創造) ④社会状況や文化的伝統を正しく理解した上で、ライフステージに応じた柔軟なマネジメント能力を身につける(知識・能力)									
海外インターンシップ	実習	1・2	2	海外インターンシップでは、「スポーツと国際化」をキーワードにし「スポーツによる国際理解」と「スポーツを通じた異文化交流」を就労体験として行い、スポーツ文化と競技、また、スポーツと社会の繋がりが、スポーツが持つ力を学び、スポーツを通して国際社会に貢献できる実践力を学修する。	1) スイスのスポーツセンターで、柔道・剣道・空手道・バスケットボール・サッカー等を指導しながら国際感覚を養い、スポーツを通して国際社会に貢献できる能力を身につける。 2) スイスの精肉店で加工や販売等を担当し、異文化体験を通して海外で活躍できる実践力を養う。	◎		○		
体育科教育特論	講義	1・2	2	体育科教育学の知見に基づき、学習指導要領に示された体育領域について、カリキュラム、教材づくり、授業構築・授業改善やリスク回避に必要な具体的知識や、効率的でよくわかる授業づくりに必要な教師行動について学習する。学習した内容について、課題ペーパーの提出や発表などを求める。	1) 保健体育科のカリキュラム論並びに教授・学習指導論の両面から、保健体育授業の構造や指導法について理解し、それを基に各領域の指導について論ずることができる。 2) 授業づくりについて、リスク回避も含め、客観的、且つ多面的な見方で論述することができる。		◎	○		
体育科指導特論	講義	1・2	2	体育科教育学の知見に基づき、学習指導要領に示された体育領域について、カリキュラム、教材づくり、授業構築・授業改善やリスク回避に必要な具体的知識や、効率的でよくわかる授業づくりに必要な教師行動について学習する。学習した内容について、課題ペーパーの提出や発表などを求める。	1) 保健体育科のカリキュラム論並びに教授・学習指導論の両面から、保健体育授業の構造や指導法について理解し、それを基に各領域の指導について論ずることができる。 2) 授業づくりについて、リスク回避も含め、客観的、且つ多面的な見方で論述することができる。		◎	○		
身体表現学特論	講義	1・2	2	現代社会におけるさまざまな文化的価値や身体観、あるいは美的概念について、文献や資料の通読を通して理解を深め、現象を読み解くことを学ぶ。	中学校においてダンスが必修化された背景には、「生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現」が挙げられる。ダンスをはじめとする身体表現は、コミュニケーションのツールの一つとして発展し、世界各地で独自の文化を形成するとともに、身体表現を伴うスポーツにおいても、それぞれの時代で芸術や美意識に影響を与えてきた。本講義ではダンスや身体表現による教育的機能や文化的価値について考察し、専門的知識を得ることで、より豊かな身体によるコミュニケーションへとつなぐ方法論の学修と、問題を明確にする思考能力を養う。		◎	○		
スポーツ比較文化特論	講義	1・2	2	文化としてスポーツが社会とどのような関わりを持ってきたのかという歴史的側面も含め、様々な時代、地域での人間とスポーツとの関わりについて、多面的な見方と思考の方法を学ぶ。	広義かつ多様なスポーツの文化的側面(遊び、競争、観戦、信仰など)を理解し、スポーツを文化的事象としてとらえる視点と具体的な問題について探求する。		◎	○		
スポーツマネジメント特論	講義	1・2	2	人文社会学分野での研究の流れを解説し、実際の研究や論文を執筆する際の重要なポイントを解説する。それと並行して、スポーツマネジメント・スポーツ社会学の学術論文における研究方法・分析方法について、基本的内容から近年のトピックまでを扱う。	スポーツマネジメント、スポーツ社会学といった人文社会学分野の学術論文に触れることにより研究方法・分析方法を身につける。		◎	○		
武道学特論	講義	1・2	2	第1回～第8回は主として戦技であった武術が文化としての武芸として成立した近世期における武道の歴史を概観する。 第9回～第15回は武道の思想や特性について概観するとともに、現代武道の意義や問題点についても他のスポーツや格闘技との比較から学修する。	武道史の概要について理解し、説明することができる。 武道思想の特徴について理解し、説明をすることができる。		◎	○		
武道指導特論	講義	1・2	2	日本の伝統的運動文化として、グローバルなスポーツとなっている武道について、その発展に関わっている歴史、文化、人物および競技などの視点から概観するとともに、武道を取り巻く様々な課題について議論を深めながら、武道の存在意義とそのあり方について学修する。	武道は心・技・体の調和を図る身体文化としての側面があり、学校教育でも取り上げられていることから、その中心となっている柔道と剣道の専門的指導に必要な知識と高度な教授力および研究能力の修得を通じて、理論と実践力を兼ね備えた武道の指導者としての資質を向上させる。		◎	○		
体力科学特論	講義	1・2	2	昨今見られる子どもの体力低下の現状を改善し、競技スポーツに必要な専門的体力など青少年の体力向上に役立つ体力トレーニングや体力の測定評価への理解、中年期に増加する生活習慣病罹患を予防するための体力づくり、さらに介護状態を遅らせるために必要な体力づくりなど、体力の維持向上に関する先進的な研究を学修する。	発育から老化に至る体力の加齢変化を理解するとともに、幼児期から成人に至るまでの体力づくり、競技選手に必要な体力トレーニングの運動生理学的効果を学び、体育学修士に相応しい知識を身につける。		◎	○		
トレーニング科学特論	講義	1・2	2	トレーニングに関する国内外の研究等を参照しながら、最新の研究成果や知見について理解するとともに、トレーニングの手段や効果の評価法、ならびに、効果機序、トレーニングによって生じる有害事象とその対応等について論じる。さらに、トレーニングを実施する際には対象・目的に応じた適切なトレーニングプログラムを作成しなければならないことから、トレーニング実施・介入に際しての基礎理論や現場への応用等に関して論じ、実践のための方法論についても考察する。	トレーニング科学に関する最新の研究知見を参照し、それらについて論じることでその研究方法や意義を理解するとともに、それら研究成果をトレーニングや運動指導、および、教育の現場で応用できる専門職業人としての能力を身につける。		◎	○		
コーチング科学特論	講義	1・2	2	地域のスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ、運動部活動からナショナルチームやプロ選手・チームに至るまで、様々な形で行われているスポーツのコーチングについて、これまでに得られている科学的知見や事例を挙げながら論じる。また、コーチングに必要な競技力向上に関する専門知識や技能の活用、コーチングの哲学や倫理等について議論していく。	今日的な競技者のニーズや社会的課題を踏まえ、コーチ・指導者として、競技者やチームを育成し、目標達成のためのサポートを実践できる能力を身につける。		◎	○		

科目名	次のような知識や能力を備えた学生に修士(体育学)の学位を授与します。				授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号			
	授業形態	配当年次	単位	①達成のために特に重要			②達成のために重要	③	④	
										①
ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に修士(体育学)の学位を授与します。 ①体育・スポーツに関わる高度な専門的知識を学修し、実践に応用できる能力・技術を身につける(知識・能力・技術) ②ライフステージに応じて、スポーツなどの身体活動に求められる課題を解決できる能力を身につける(能力) ③科学的根拠にもとづいて、競技能力を高めるための練習法の改善、効果的な指導法を考案し、教授できる力を身につける(技術・能力・創造) ④社会状況や文化的伝統を正しく理解した上で、ライフステージに応じた柔軟なマネジメント能力を身につける(知識・能力)									
スポーツ栄養学特論	講義	1・2	2	栄養学や生理学、生化学といったスポーツ栄養学につながる基礎知識を概説し、関連する研究の知見を紹介しながら、研究で得られた知見を実際の現場にどのように活かしていくのかを考え、議論する。	スポーツ栄養学に関する幅広いテーマにおいて研究や教育・指導または自分自身の食生活を支えるうえで必要な知識を習得し、場面に応じた適切な助言ができるようになる。		◎	○		
スポーツ医学特論	講義	1・2	2	スポーツによる外傷・障害、または、スポーツによって生じる疾患や事故等に対する評価法・処置および治療法・予防法・リハビリテーション等について専門的な知識について学ぶ。運動療法やドーピングをはじめとした、スポーツに携わる者にとって必要不可欠な様々な医学的知見について、科学的根拠に基づいて議論すること大切さを身につける。	スポーツによる外傷・障害、または、スポーツによって生じる疾患や事故等に対する評価法・処置および治療法・予防法・リハビリテーション等について専門的な知識を学ぶ。また、運動療法やドーピングをはじめとした、スポーツに携わる者にとって必要不可欠な様々な医学的知見について、科学的根拠に基づいて議論すること大切さを参照し、その内容について理解を深めることができる。現場での実践や研究方法の修得に結びつけることができる。		◎	○		
学校保健学特論	講義	1・2	2	学校現場に視点をおく近代学校衛生史の研究書を取りあげ、仲間とともに輪読する。それによって、学校保健の歩み、学校保健の歴史研究の課題、および、歴史資料によって実証する研究方法を詳しく知る。	学校教育は子どもの健康を担う、という考えは、近代日本の学校教育が開始されて以来、その歴史のなかで独自の歩を進めてきた。それは、学校衛生・学校保健と呼ばれる領域である。近代日本の学校保健の歩みに目を向け、一つの研究書を精読することを通して、学術的な観点から新しい知見を得るためのヒントをつかむことを目的とする。		◎	○		
スポーツバイオメカニクス特論	講義	1・2	2	バイオメカニクスとは「運動に関係する生態系の構造や機能を力学の法則に照らして研究する応用学」である。本講では、スポーツ科学においてバイオメカニクスが果たせる役割、スポーツバイオメカニクスに関する基礎的知識に加えて、その研究・解析手法に関する学びを通して、身体運動のしくみを理解する力を習得する。	1) スポーツ科学におけるバイオメカニクスの役割を理解する 2) バイオメカニクスに関する基本的知識を修得する 3) バイオメカニクスの分析方法について理解する 4) バイオメカニクスの観点から身体運動のしくみを捉えられる		◎	○		
体育科教育演習	演習	1・2	2	体育科教育の現状、指導の在り方および課題について、文献講読や討論、体育授業の映像分析、模擬授業の実践等を通して理解を深めるとともに、体育科教育に関わる自身の研究手法や今後の現場等における課題解決のための方策について演習形式で学修する。	1) 体育科教育特論の学修をベースに保健体育科教育を学校教育全体の中で捉える視野を身につける。 2) 保健体育の授業づくりに関わる基礎的知識と実践的能力を高め、文献講読を通して課題の探求と解決のための能力を養う。 3) 保健体育教師としての資質と力量の向上を図る。			○	◎	
体育科指導演習	演習	1・2	2	体育科教育学における、教材づくり論、学習指導論、教師論などの研究方法論や授業研究の具体的な分析方法を学修し、自己の研究に生きる研究方法について発表・討議を通して、研究の調査、分析方法を具体化していく。	1) 体育科教育学の教材づくり論等の考えや授業研究の分析法等の専門的知見を修得し、保健体育科授業実践及び、自己の研究に生きる、問題解決能力を身につける。 2) 研究論文、映像資料等を基に、自己の研究、特に調査・分析方法に関する視点を持つ。			○	◎	
身体表現学演習	演習	1・2	2	身体表現学の研究課題の設定、先行研究の検討、フィールドワークの立案、予備調査を行いながら資料収集を行い、それらの分析などを通して、先行研究の通読、データ分析、プレゼンテーション能力の基礎力を身につける。	身体表現学領域に関する先行研究の研究背景と目的の整合性、研究計画の妥当性、研究課題の独創性、研究課題の検証と考察と結論への一貫性を持った記述法について学び、自らの研究課題に則した資料の収集と分析方法を学修する。			○	◎	
スポーツ比較文化演習	演習	1・2	2	スポーツ人類学の分野やスポーツ文化に関わるテーマを選び、研究内容や調査手法等について討論を行う。また、スポーツ人類学での研究方法であるフィールドワークを実践する。研究課題へのアプローチの方法としての参与観察について学び、体育学・スポーツ学への活用についても考える。	スポーツ人類学の分野における理論やエスノグラフィなどから文化人類学の手法を学ぶことで、「スポーツ」が様々な地域や時代においていかなる意味や価値を持っているのかを探求する視点や方法について学修する。			○	◎	
スポーツマネジメント演習	演習	1・2	2	前半は教員から提示した学術論文の解説を通じて、多様な研究対象の事象に触れる。後半は、受講生が交代で関心のある学術論文に関して報告し、批判的な観点も含めて教員・受講生で検討する。	スポーツマネジメント、スポーツ社会学に関連する学術論文をもとに、社会科学の観点から見た現代社会のスポーツに関わる現象の理解を深め、特に批判的読解から新たな研究課題を導く力をつける。			○	◎	
武道学演習	演習	1・2	2	第1回～第8回は近世武芸伝書を、第9回～第15回は近代武道史料をテキストとして講読しながら演習を進める。 第1回と第9回授業時に、受講生各自の問題意識を聴取し、その問題意識に見合った武道伝書や資料を選定し、伝書の読解(輪読)と当該伝書を資料として用いた研究論文等の検討を繰り返す。	武道に関する受講生自身の問題意識をもとにテーマを設定して、史料解読能力の向上や研究手法の獲得をめざすとともに、武道における各時代の技術や思想の歴史の変遷を理解し、今日的な価値や現代社会における武道のあり方についても受講生間での議論を通じて考える。演習を進めるにあたっては、毎授業時に近世武芸伝書や近代武道史料等を題材に入念な討論を継続して行うことで、最終的には武道についての問題意識の確認し、修士論文への発展を図ることを到達目標とする。			○	◎	
武道指導演習	演習	1・2	2	日本の伝統的文化、また身体文化である武道の歴史的経緯や精神的特性、技術的特性および倫理的理念などについて学修し、今日における武道の理念や普遍性、修練の構造などについて理解を深める。そのために、古文書などに記述されている内容の吟味と現代的解釈を通して武道の歴史性、文化性および普遍性を討議・究明する。	武道を単なる「競技」ではなく、「日本の伝統的運動文化」という視座にたち、武道の特質と身体的意義、そして、人間形成における影響を考察し、現在武道の指導論へと発展させる。			○	◎	

科目名	次のような知識や能力を備えた学生に修士(体育学)の学位を授与します。 ①体育・スポーツに関わる高度な専門的知識を学修し、実践に応用できる能力・技術を身につける(知識・能力・技術) ②ライフステージに応じて、スポーツなどの身体活動に求められる課題を解決できる能力を身につける(能力) ③科学的根拠にもとづいて、競技能力を高めるための練習法の改善、効果的な指導法を考案し、教授できる力を身につける(技術・能力・創造) ④社会状況や文化的伝統を正しく理解した上で、ライフステージに応じた柔軟なマネジメント能力を身につける(知識・能力)				授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要			
	授業形態	配当年次	単位	①			②	③	④	
体力科学演習	演習	1・2	2	国内外で発表された先行研究から、課題とする研究をいくつか取り上げ、研究の問題点や限界から、自らの修士論文作成に関わる研究テーマを発見し、課題を解決する能力を身につける。	体力づくりのためのトレーニングや測定評価に関わる最新の先行研究の通読を通して、幼児や生徒、競技者、中高年者、高齢者を対象とした横断的・縦断的研究を理解し、ライフステージ(発育発達期、成人期、中年期、高齢期)に必要な体力やトレーニング法についての知識を修得する。		○	◎		
トレーニング科学演習	演習	1・2	2	トレーニング科学の論文通読から、研究の成り立ちや課題の設定、研究方法について理解することにより、自身の研究や今後の現場等における課題解決のための研究作業の進め方についての知見を得る。	トレーニング科学に関するこれまでの、あるいは、最新の研究論文を通読することにより、トレーニング科学領域に関連する課題の探索やテーマの設定を行う上で不可欠な研究成果および有意義な知見を確認し、発表およびディスカッションを行うことで、トレーニング科学に関する幅広い見識を養う。		○	◎		
スポーツ栄養学演習	演習	1・2	2	研究を進めていくうえで必要な知識、技術を身につけ、栄養学分野の研究を先行研究や文献を読むことにより栄養学分野の研究の傾向を把握する。また、文献の要旨をまとめ、発表することで、今後の研究に役立つ知識と技術を深める。	運動やスポーツと栄養の関係を検討した研究成果について学び、自らの研究テーマを確立するための基礎知識と基本的な手法を習得する。また、取り組んだことを研究として成立させるための情報収集能力を身につける。		○	◎		
スポーツ医学演習	演習	1・2	2	それぞれのテーマについて総論を行ったのち、各自先行論文を収集し、それぞれのテーマにおける現況を理解する能力を身につける。各自のスポーツ経験を踏まえた積極的な議論を行い相互の理解を深める技能を身につける。また、パワーポイントを用いた発表を積極的に行い発表スキルを身につける。	1)各個人においてはスポーツ医学特論の中で特に興味を持った分野において研究課題を選定し先行研究論文を収集し抄読する能力を身につける。また、その論文抄読を通して、スポーツ医学関連領域の研究課題の設定方法や研究方法について学ぶ。 2)重要な研究トピックについてはそれに関する論文を輪読し、研究の意義や研究知見の現場での応用などについて教員および院生間でディスカッションを行い、本領域における研究に対する理解を深める。パワーポイントを用いた発表を身につける。		○	◎		
学校保健学演習	演習	1・2	2	学校教育における、健康、発育発達、教員、保健、安全、疾病予防、保健教育などをキーワードとして、興味深いテーマの学校保健研究を自ら探索し、その内容を、主題、方法、論考、論述といった観点から掘り下げ、理解する。そのための探索・読解・議論・発表などの演習活動に主体的に参加することで、自らの研究能力を高める。	学校保健研究の論文もしくは理論書を具体的に一つ取り上げ、丁寧に講読することを通じて、問題の立て方、研究の方法論、資料の読解力、および、論考・論述の仕方身につける。		○	◎		